

日本オペラ協会公演  
日本オペラシリーズNo.86

2024 都民芸術フェスティバル 参加公演

倉本聰の名作が初のオペラ化!!

倉本 聰 原作

渡辺俊幸 作曲 / 吉田雄生 オペラ脚本

新作初演



〈オペラ全2幕〉

未来につなげ、いのちの木

総監督 | 郡 愛子

指揮 | 田中祐子 演出 | 岩田達宗

	2/10&12	2/11
勇太	須藤慎吾	村松恒矢
オ三	海道弘昭	渡辺 康
かつら	佐藤美枝子	光岡暁恵 他

2024 2/10(土) 11(日祝) 12(月振) 各日 14:00開演 めぐるパーシモンホール 大ホール

開場13:00 \*各日とも13:15から作品解説をいたします。 上演時間：約2時間30分 東急東横線「都立大学」駅より徒歩7分

S ¥15,000 A ¥12,000 B ¥8,000 C ¥3,000 税込 2023年9月30日(土)10:00より発売開始!!

■青春割引チケット：¥2,000 (25歳以下 / 枚数限定 / 席種・席番はご指定いただけません※B席・C席相当) ■ヤング・フレッシュマンチケット：S席・A席 半額 (25歳以下 / 枚数限定)

■障がい者割引：S席～B席 20%割引 (枚数限定) \*特別割引につきましては、日本オペラ振興会チケットセンターのみで取り扱い。詳細はお問い合わせください。

●お問い合わせ・予約 | 日本オペラ振興会チケットセンター 03-6721-0874 (平日10:00～18:00) <https://www.jof.or.jp>  
●チケット販売所 | チケットぴあ <https://t.pia.jp/> (Pコード：247-558) ・イープラス <https://eplus.jp/> webでのチケットご購入はこちら   
・ローソンチケット (Lコード：34939) <https://www.persimmon.or.jp/ticket.html> (座席選択可)  
・めぐろパーシモンホール チケットセンター <https://www.persimmon.or.jp/ticket.html> (座席選択可)  
電話：03-5701-2904 (10:00～19:00) 定休日なし(年末年始及び臨時休館日を除く)  
窓口：地下1階(10:00～19:00) 定休日なし(年末年始及び臨時休館日を除く)

■主催：公益財団法人日本オペラ振興会、公益社団法人日本演奏連盟 ■共催：公益財団法人目黒区芸術文化振興財団 ■特別協力：一般財団法人倉本財団 ■都民芸術フェスティバル主催：東京都 / 公益財団法人東京都歴史文化財団  
■助成：公益財団法人東急財団(田中祐子：五島記念文化賞オペラ新人賞研修成果発表)、公益財団法人三菱UFJ信託芸術文化財団 ■協力：太鼓芸能集団 鼓童

《ニングル》は、「北の国から」など、テレビや舞台を中心に数多くの名作を世に送り出してきた脚本家・倉本聡の代表作の一つです。本作が書かれた40年前、環境問題が今ほど取り上げられていなかった時代に、早くもこの問題に警鐘を鳴らしています。

これまで舞台やラジオドラマなどで多くのファンを魅了してきた本作が、この度オペラ「ニングル」として新たな一歩を踏み出します。倉本作品初となるオペラ化であり、ジャンルを問わず、多方面から注目を集めています。作曲はテレビ、映画の劇伴で活躍し、オペラ「禅〜ZEN〜」の作曲で高い評価を得た渡辺俊幸。オペラ脚本は原作者・倉本聡の信任が厚い吉田雄生が担い、オペラ脚本家としてデビューを飾ります。指揮と演出には、2023年2月に日本オペラ協会公演「源氏物語」を大成功に導いた田中祐子と岩田達宗が再びタッグを組み、本作に命を吹き込みます。

金がなければ暮らしていけない。だが、森がなければ生きていけない。《ニングル》は、この二つの現実の間で苦悩する二人の若者の相剋のドラマです。現実のために未来を忘れる青年・勇太(ユタ)をバリトンの須藤慎吾と村松恒矢が、未来を想って現実に破れ死を選ぶもう一人の青年・オ三を、テノールの海道弘昭と渡辺康が演じます。また、プリマドンナの佐藤美枝子と光岡暁恵がかつらを務める他、日本オペラ協会を牽引する歌手陣が、東京フィルハーモニー交響楽団の演奏に乗せて本作の世界を表現します。

『昔に返せ』『未来につなげ』...ニングルから人間への痛切な訴えを今、日本オペラ協会渾身の想いでお届けします。

田中祐子:五島記念文化賞オペラ新人賞受賞記念  
指揮 田中祐子 × 作曲 渡辺俊幸 アフタートーク開催  
2024年2月10日(土) / 11日(日) 終演後 会場内にて  
※事前予約不要。当日の公演チケットをお持ちの方のみ

# ニングル

## 「ニングル」に寄せて

「ニングル」は元々40年前ノンフィクションとして書いた、富良野の森に棲む小さな原住民の物語です。

体長15〜20センチ。2〜300年の寿命を持つという小さな人間。決してフィクションでもお伽噺でもありません。当時は目撃者がまだ存命で、その残り少ない方々から目撃談をお聞きして一冊の本に纏めました。(昭和60年、文藝春秋「諸君」に連載。1985年、理論社より発刊)

森に生まれ、森に棲み、樹木と同じ一生の長さを生きるというこの原住民の存在にボクは衝撃的ショックを受け、当時現存したある仲介人の紹介で一人のニングルと知合いになって、森に関する様々なことを山程教えてもらいました。皆さんがそのことを信じようと信じまいと、それはもう皆さんの自由です。

僕の主宰した演劇養成所富良野塾で、それを戯曲にし初演したのは1993年3月のことです。以来、全国各地で上演しました。

今回、日本オペラ協会が、この作品をオペラとして製作して下さるとのこと、大変光栄に思っております。

この作品が今のこの、地球環境を際限なく破壊し、我々の暮らしを崩壊の道へ進めている社会に、大きな反響と感動をもたらして下さることを切に期待し、祈るものです。

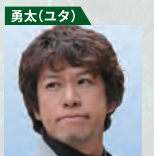
北海道・富良野より  
倉本 聡

### STORY

富良野岳の山裾にピエベツという村があった。勇太やオ三ら若者たちは森を伐採し、農地の新たな開拓を計画していた。勇太とかやの結婚式の夜、勇太とオ三は勇太の姪のスカンポを連れて森を訪れ、そこで不思議な生き物と出会う。15センチくらいの小さな人間。かつてアイヌの先住民たちは彼らを「ニングル」と呼んだ。ニングルは勇太とオ三に告げる。「森ヲ伐ルナ、伐ツタラ村ハ滅ビル」ニングルの言葉を信じるオ三とニングルの存在を否定してしまう勇太。オ三は村から孤立してしまった。

しかし、やがて村は大洪水に襲われ、豊かだった水が枯れた。増えるはずの収穫は思い通りにはいかず、人々は借金に苦しめられた。ニングルの予言通り、村は破滅へと向かってしまったのだ。本当の豊かさとは、本当の幸せとは何なのか、そして人間は、「生命の木」を未来に繋ぐことができるのだろうか――。

2/10(土) 12時



勇太(ユタ) 須藤 慎吾 Shingo SUDO



オ三 海道 弘昭 Hiroaki KAIDO



かつら 佐藤 美枝子 Mieko SATO



指揮 田中祐子 Yuko TANAKA



演出 岩田達宗 Tatsuji IWATA



勇太(ユタ) 村松 恒矢 Koya MURAMATSU



オ三 渡辺 康 Yasushi WATANABE



かつら 光岡 暁恵 Akie MITSUOKA



ミクリ 別府 美沙子 Misako BEPPU



スカンポ 中桐 かなえ Kanae NAKAGIRI



光介 杉尾 真吾 Shingo SUGIO



信次 黄木 透 Toru OKI



ミクリ 相楽 和子 Kazuko SAGARA



スカンポ 井上 華那 Kana INOUE



光介 和下田 大典 Daisuke WAGETA



信次 勝又 康介 Kosuke KATSUMATA



民吉 久保田 真澄 Masumi KUBOTA



ニングルの長 江原 啓之 Hiroyuki EHARA



かや 丸尾 有香 Yuka MARUO



信子 佐藤 恵利 Eri SATO



民吉 泉 良平 Ryohei IZUMI



ニングルの長 山田 大智 Taichi YAMADA



かや 長島 由佳 Yuka NAGASHIMA



信子 佐藤 恵利 Eri SATO

合唱：日本オペラ協会合唱団 管弦楽：東京フィルハーモニー交響楽団

STAFF > 合唱指揮：河原哲也 美術：松生紘子 衣裳：下斗米大輔 照明：大島祐夫 振付：古賀豊 舞台監督：伊藤潤 副指揮：諸遊耕史、鍋木啓馬 演出助手：三浦奈綾

NPO法人日本音楽生涯学習振興協会は、藤原歌劇団・日本オペラ協会の本公演を応援しています！

日音協会では、地域住民のための生涯学習『童謡コーラス』『みんなの音楽会』の2つの支援事業を推進しています

TV 『みんなの音楽会テレビ』 毎週日曜朝(テレビ神奈川 10時00分/テレビ埼玉 10時15分)好評放送中！  
— レギュラーコーナー「みんなのオペラ」では、日本オペラ振興会の公演や歌手をご紹介します。—